

生活時間

1. 退勤時刻

【6時ころを最頻値（29.2%）として、5時半ころから6時半ころの間に7割以上が集中している。中学校教員と比べると、退勤時刻がおおよそ1時間程度早い。】

Q1. あなたのふだんの生活についておたずねします。勤務のある平日の平均的な日を考えて、お答えください。

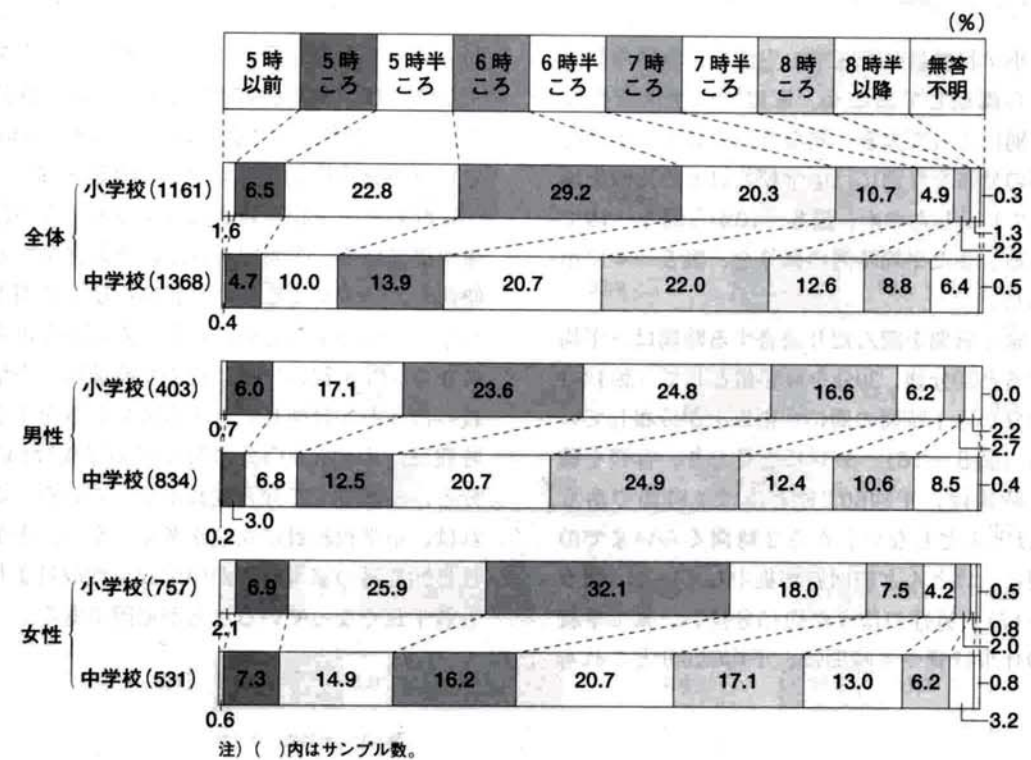
A. 退勤時刻は、だいたい何時ころですか。

小学校教員の退勤時刻は、6時ころを最頻値（29.2%）として、5時半ころ（22.8%）から6時半ころ（20.3%）の間に7割以上が集中している（図5-15）。8時を過ぎて帰宅する教員は、5%に満たない。

これを中学校教員と比較する。中学校の場合、7時ころを最頻値として（22.0%）、5時半ころから7時半ころの2時間に約8割の教員が帰宅している。帰宅時間のばらつきが大きい。8時を過ぎて帰宅する者も15%以上いる。これと比較すると、小学校教員の帰宅時間は、第一に中学校より早く（おおよそ1時間

合、7時ころを最頻値として（22.0%）、5時半ころから7時半ころの2時間に約8割の教員が帰宅している。帰宅時間のばらつきが大きい。8時を過ぎて帰宅する者も15%以上いる。これと比較すると、小学校教員の帰宅時間は、第一に中学校より早く（おおよそ1時間

図5-15 退勤時刻（小・中比較）



程度)、第二にばらつきが相対的に小さい点
が特徴である。

この傾向は、しかし、小学校教員に女性が多
いことに起因している可能性もある。そこ

2. 家庭での生活時間

【平均時間は、家で新聞を読んだり読書する
時間＝30分強、テレビを見たり、音楽を聴く
時間＝60.2分、家で学校の仕事に費やす時間
＝62.6分、家庭の仕事をする時間＝84.7分。
家庭の仕事をする時間については、性差が大
きく、男性(43.3分)に比べて女性(106.8
分)で60分強長い。家での生活のしかたは、
多変量解析(クラスター分析)によって、＜仕
事・余暇型＞＜家事集中型＞＜新聞・読書
型＞という、3つのタイプに分かれた。仕

で、性別に比べてみると、同じ結果が確認で
きる。女性教員は男性教員に比べて帰宅時刻
が早い傾向があるが、性別に関わりなく、小
学校教員の帰宅時刻は中学校教員より早い。

事・余暇型は、余暇時間とりわけテレビや音
楽の時間が格段に長く、同時に家で学校の仕
事に費やす時間も長いのが特徴。家事集中型
は、家庭の仕事にあてる時間が他のタイプの
3倍程度と長く、余暇時間が短いのが特徴で
ある。新聞・読書型は、テレビ・音楽が短く、
学校の仕事に費やす時間、家庭の仕事をする
時間もごく短い。「家では何もしないタイプ」
といったほうがよい。】

Q1. あなたのふだんの生活についておたずねします。勤務のある平日の平均的な日を考
えて、お答えください。

- B. 家で、新聞を読んだり、読書する時間
- C. 家で、テレビを見たり、音楽を聴く時間
- D. 家で、学校の仕事(教材研究、事務処理、児童への連絡など)に費やす時間
- E. 家庭の仕事(食事の支度などの家事や、育児)をする時間

小学校教員の家庭での生活を、時間の観点
から概観しておこう。家庭での生活時間は、
性別によって大きく異なる。そこで、生活時
間の分布を性別に(中学校教員との比較を加
えて)示したのが、図5-16から図5-19で
ある。また平均時間の概算を、表5-4に示
した。

家で新聞を読んだり読書する時間は、平均
すると30分強、30分を最頻値として(39.1%)、
15分から1時間の間に8割以上が分布してい
る(図5-16)。テレビを見たり、音楽を聴く
時間は、平均60.2分とほぼ1時間である。
「ほとんどしない」から2時間くらいまでの
間に、ほとんどの回答が集中している(図5
-17)。男性のほうが約15分長い。家で学校
の仕事に費やす時間は、平均62.6分とこれも

約1時間である(図5-18)。家庭の仕事をする
時間は、平均すると84.7分であるが性差
が大きく、男性(43.3分)に比べて女性(106.8
分)で60分強長くなっている(図5-19)。

これらを中学校教員と比較すると、次の結
果が出ている。①新聞を読んだり読書をする
時間と、②テレビを見たり音楽を聴く時間と
いう、2つの余暇時間にはほとんど差がみ
られない。③学校の仕事に費やす時間は、小学
校のほうが10分強長い。④家庭の仕事をする
時間は、中学校60.4分に対して小学校は84.7
分と、小学校で25分程度長くなっている。こ
れは、小学校教員に女性が多く、かつ、小学
校男性教員の家事時間が中学校男性教員より
も若干長くなっていることが原因である。

図5-16 家で新聞を読んだり、読書する時間(小・中比較)

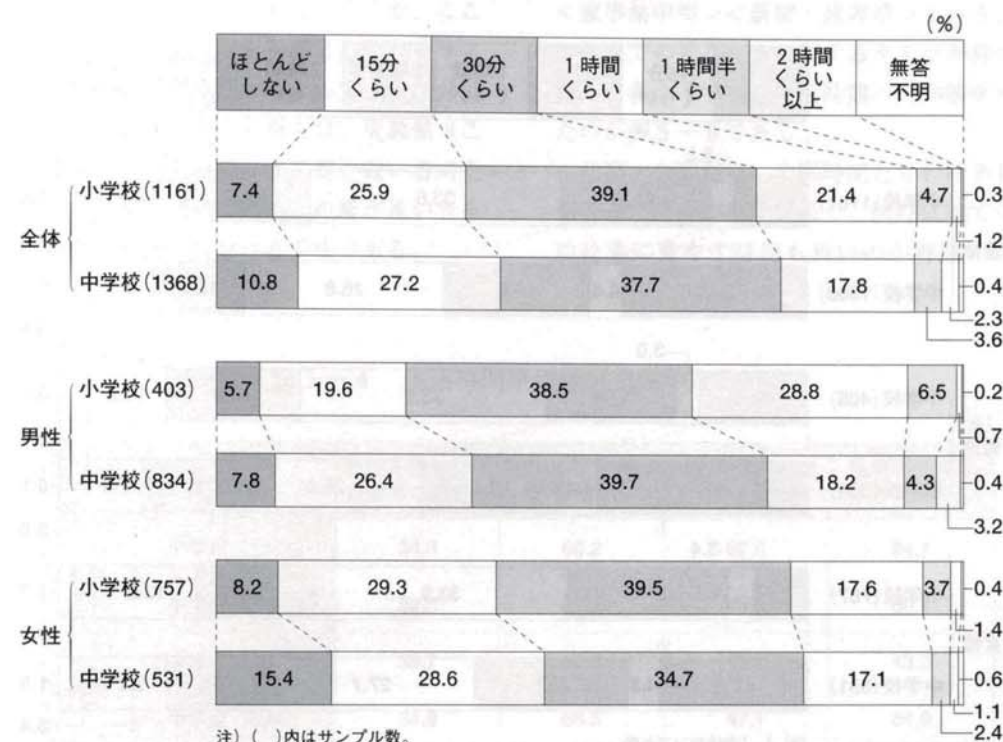


図5-17 家でテレビを見たり、音楽を聴く時間(小・中比較)

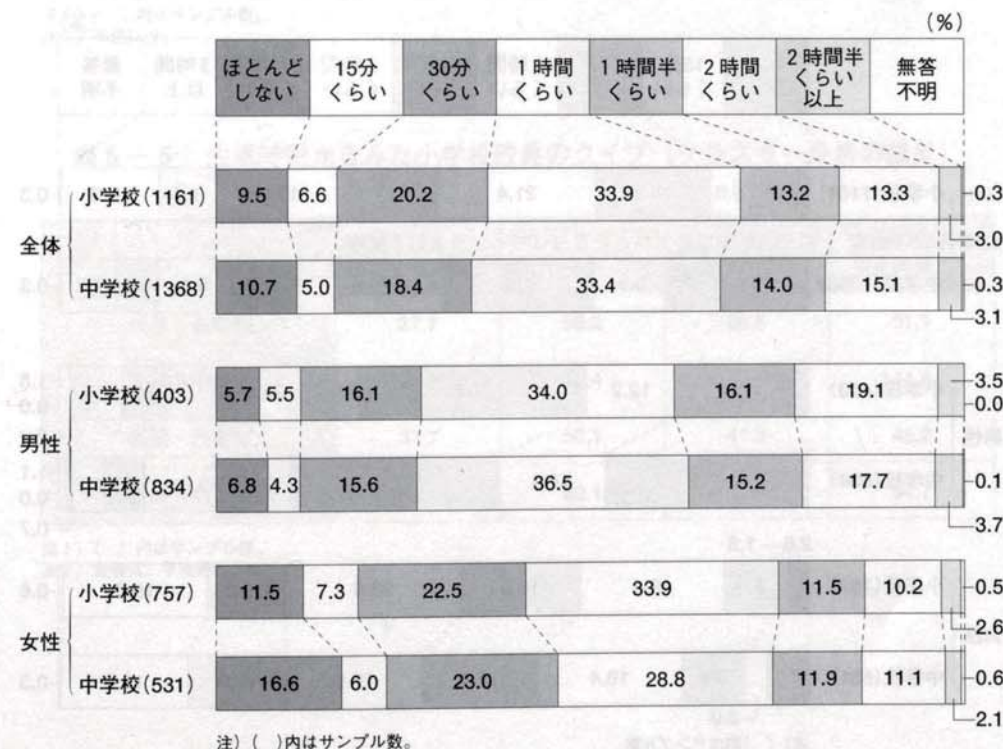


図5-18 家で学校の仕事に費やす時間（小・中比較）

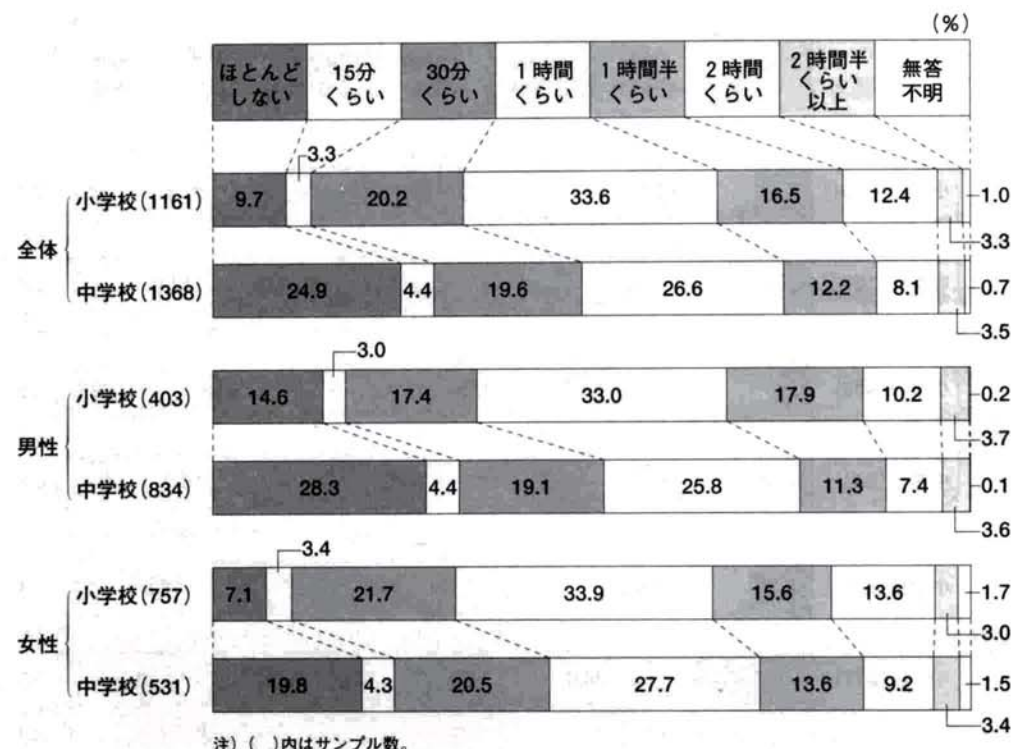
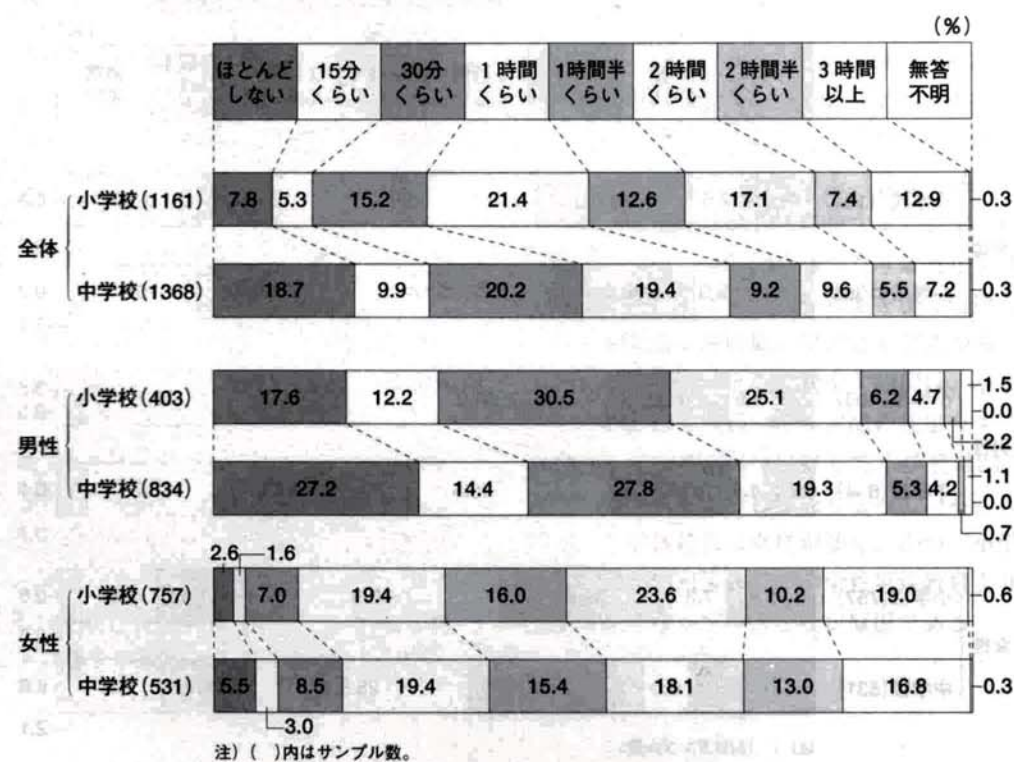


図5-19 家庭の仕事をする時間（小・中比較）



小学校教員の家庭での過ごし方は、どのようなタイプに分かれているのだろうか。ここでは、4つの生活時間を指標として、クラスター分析を適用することによってタイプ分けを試みた。クラスター分析とは、変数値（ここでは4つの時間指標）の距離に近い者同士を同一のグループにまとめ、距離が遠い者を異なるグループに仕分ける手法である。

クラスター分析の結果、＜仕事・余暇型＞＜家事集中型＞＜新聞・読書型＞という、3つの家での過ごし方に関するタイプが析出された。各タイプ別の生活時間の平均値を示したのが表5-5である。

仕事・余暇型は、余暇時間とりわけテレビや音楽の時間が格段に長く、同時に家で学校の仕事に費やす時間も長いのが特徴である。

表5-4 生活時間平均値（小・中比較）

		(分)			
		新聞を読んだり、読書する時間	テレビを見たり、音楽を聴く時間	家で学校の仕事に費やす時間	家庭の仕事をする時間
全体	小学校 (1161)	34.3	60.2	62.6	84.7
	中学校 (1368)	32.5	62.2	49.5	60.4
男性	小学校 (403)	38.7	69.0	60.1	43.3
	中学校 (834)	34.9	68.3	47.1	34.9
女性	小学校 (757)	32.0	55.5	63.9	106.8
	中学校 (531)	28.7	52.7	53.1	100.3

注1) ()内はサンプル数。
注2) 単位は分。

表5-5 生活時間からみた小学校教員のタイプ（クラスター分析の結果）

		(分)			
		新聞を読んだり、読書する時間	テレビを見たり、音楽を聴く時間	家で学校の仕事に費やす時間	家庭の仕事をする時間
仕事・余暇型		37.7	98.2	86.6	51.1
家事集中型		28.9	42.4	64.0	144.6
新聞・読書型		37.7	50.1	41.9	45.2
全体 (1161)		34.4	60.1	62.3	84.7

注1) ()内はサンプル数。
注2) 数値は、平均時間（分）。

家事集中型は、家庭の仕事にあてる時間が他のタイプの3倍程度と長く、余暇時間が短いのが特徴である。新聞・読書型は、テレビ・音楽が長く、学校の仕事に費やす時間、家庭の仕事をする時間もごく短い。データをそのまま解釈すれば、「家では何もしないタイプ」といったほうがよいかもしれないが、新聞・読書に費やす時間が仕事・余暇型と並んで比較的長いことから、ここでは新聞・読書型と命名した。

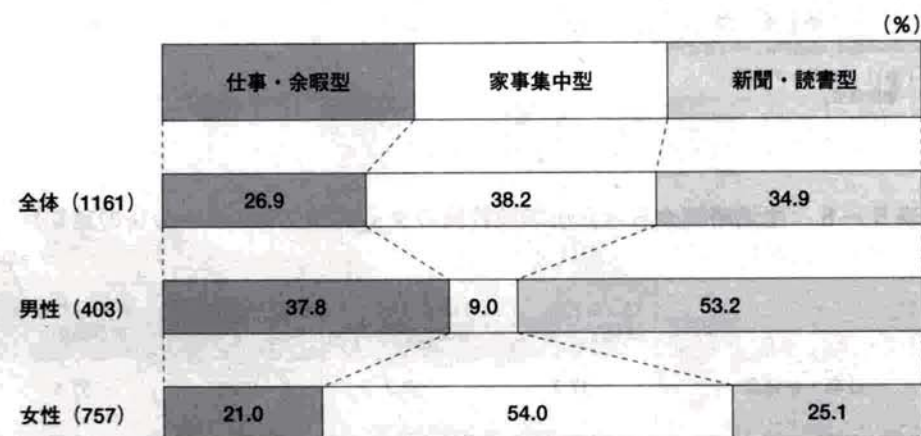
これら3つのタイプの性別、結婚・子どもの有無別、年齢別分布をみたのが、図5-20から図5-22である。

女性教員の過半数が(54.0%)家事集中型であり、その分仕事・余暇型、新聞・読書型が少なくなっている(図5-20)。しかし、女性であることが即家事集中型の家庭生活を余儀なくさせるわけではなく、結婚・子ども

の有無によって状況は異なる(図5-21)。独身者は、家事集中型が1割に満たないのに対して、結婚して子どもがある教員では、それが46.1%に達している。結婚していても子どもがいない場合には、家事集中型が19.4%にとどまり、独身型ときわめてよく似た分布を示すことを考えると、家事集中型の生活時間は、子どもがいることに起因すると考えてよいだろう。

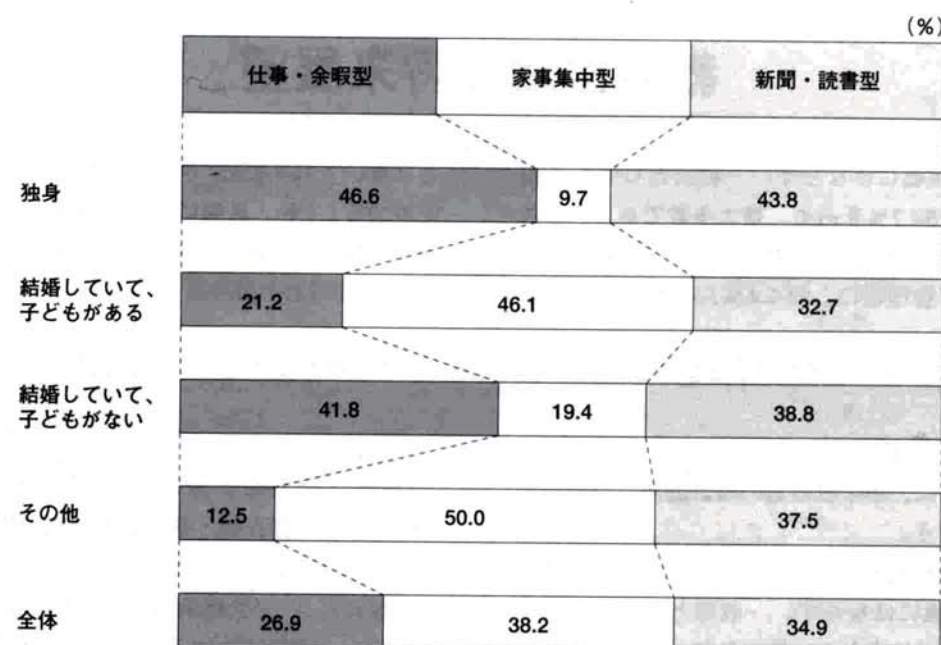
年齢別にみると(図5-22)、20代前半では仕事・余暇型が70.8%と多数を占めている。仕事余暇型は年齢の上昇とともに減少し、とりわけ30代で(おそらく子どもができることを契機に)激減する。代わって増加するのが家事集中型である。新聞・読書型は20代前半から後半にかけて増加をみるが、30代以降は大きな変化はない。

図5-20 生活時間のタイプ(性別)



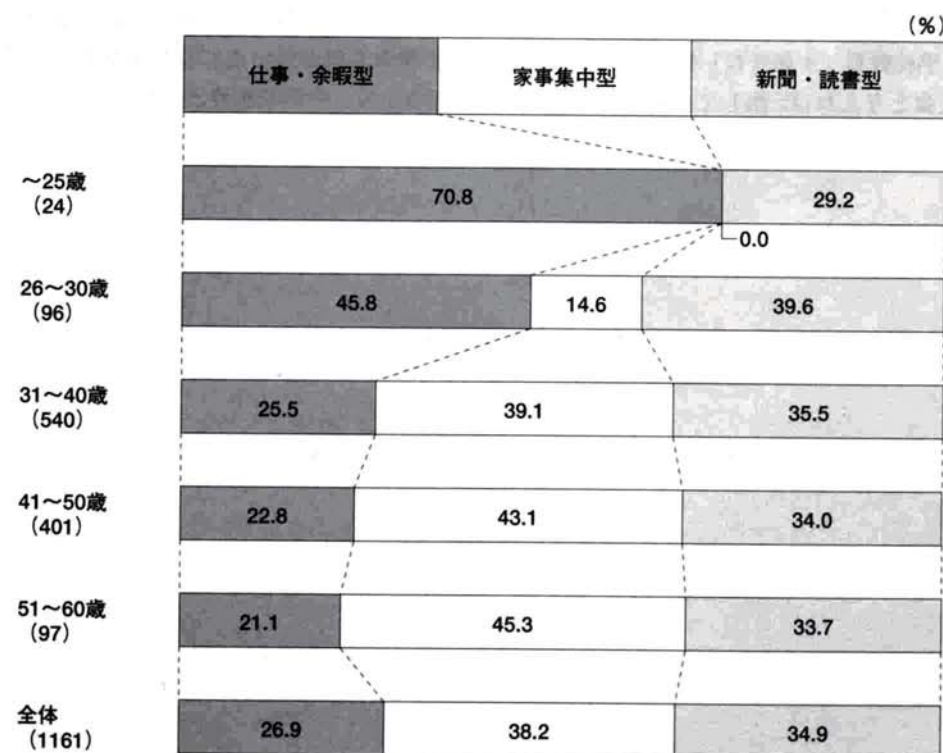
注) ()内はサンプル数。

図5-21 生活時間のタイプ(結婚の有無別)



注) サンプル数は1161人。

図5-22 生活時間のタイプ(年齢別)



注) ()内はサンプル数。